



装置から完成した燃料を取り出しています



現在、公用車2台で使用

食用油が燃料に大変身 給食センターで使った油 公用車を走らせます

田原市は、「たはらエコ・ガーデンシティ構想」の「菜の花エコプロジェクト」の一環として、廃食用油燃料化設備を導入しました。これは、使用済みの食用油を24時間で軽油の代替燃料（BDF）に変換する装置で、1日当たり40リットルの生産が可能です。当面は、市給食センターに加えて、市内飲食店の協力を得ながら油をリサイクルし、公用車（ディーゼル車）の燃料として使用しますが、今後は、すでに農業委員会と田原菜の花エコ推進協議会が遊休農地で栽培している菜の花から菜種油を採取、それを学校給食の調理に使用し、その廃食用油をリサイクルする循環システムの実現を目指します。さらに将来は、この燃料を「ぐるりんバス」で使用することも計画しています。

なお、リサイクルされた燃料には次のような特徴があり、環境にやさしい燃料といえます。

- 排気ガス中の黒煙は軽油より約30%少ない
- 酸性雨の原因となる硫黄酸化物の排出量はゼロに近い
- 軽油と同等の走行性能を確保
- 特別な改造なしでディーゼルエンジンに使用可能

高い建物でも安心 ぐんぐん伸びるぞ35メートル！ 頼もしい新型はしご車

田原市消防本部は11月、最新の災害対応特殊はしご付消防自動車（はしご車）を導入しました。これは、従来のはしご車が導入後20年を経過し老朽化が進んだこと、市内の建築物が高層化してきたこと、災害が多様化してきたことなどに対応するためです。

新型はしご車の最大地上高は、従来のはしご車よりも約10m高い35.9m。これは、通常10～11階建ての建物に届く長さで、市内で最も高層のサンコート田原（9階建て）にも対応できます。また、これまでは高所でしか操作できなかったものが、-10度の低所にもはしごを伸ばすことが可能で、川や海で救助活動を行うこともできます。さらに、はしご先端に多機能のバスケットを装着するほか、各操作の自動化や4WS（4輪操舵）機能による最小回転半径の低減などが図られており、より高度な消火・救助活動が期待できます。



3階建ての市役所庁舎も楽々と越えることができます